

個人山行

越前：荒島岳

- ◆日程 2021年7月24日(土)～25日(日)
- ◆メンバー L：0T

7月22日から白山に遠征する。せっかく北陸に行くのだ、他にも登ってから帰りたい。地図を見ると福井の名峰、荒島岳がある。しかし、白山から登山ルートは直接繋がっていない。調べると鳩ヶ湯に降りれば荒島岳の登山口までバスが通じている。鳩ヶ湯まで20キロほどだが、8月に予定する北海道縦走に向けてのトレーニングを兼ねて計画した。

7月24日(土) 天候：晴時々曇

白山のメンバー(MDL, KHさん, OYさん)と共に南竜山荘を4:30に出発。下山地の鳩ヶ湯で乗る16時のバスに間に合わせるための早出に、メンバーが合わせてくれた。まずは別山に向け尾根に取付く。ルートは夜露に濡れた藪が茂る。スポンがあつという間にビショビショだ。そのうちスポンの水分が靴下を伝って靴の中に入ってきた。暑くてもレインパンツを履くべきだった。平ヶ岳でも似たような状況になったではないか。

尾根に乗ると至る所にお花畑が広がる。ここからはのんびり進む。山荘で図鑑を買ったKHさんが、花の名前を教えてくれる。白山が名前の由来になったハクサンコザクラやらゴゼンタチバナなどが咲き誇る。昨日の白山御前峰と打って変わって人にはほとんど会わない。別山手前のチブリ尾根分岐で靴下を絞ると水が滴る。交換して濡れた方はザック干しに。別山

で白山のメンバーとはお別れ。三ノ峰から先はガスが掛かりがちで展望が悪い。当然ながら、下降すればするほど暑い。小池登山口からの長いロード中に足裏に違和感。見てみると、靴が乾いた代わりに足が全部水分を吸った如くにふやけまくっている。再度靴下を交換。鳩ヶ湯に



たどり着くと、休業中。お風呂はお預けだ。勝原では九頭竜川畔のキャンプ場にて幕営。程なく雷雨となり、涼しくなった。
(記：OT)

CT:南竜山荘 4:30 - 油坂の頭 5:30-別山 8:10/8:20 - 三ノ峰 9:30 - 登山口 11:55-
鳩ヶ湯 14:20=バス=勝原(幕営地) 17:00

7月25日(日) 天候：曇のち晴

6時に幕営地を出発。朝から蒸し暑い。午後には天気は崩れる予報なので早目に下山しておきたい。ロードを進んで着いた登山口にはすでに何台もの車。ナンバープレートを見ると、西は倉敷、北は福島。さすが百名山だけある。昨日の夕立で森全体が濡れており、無風でひたすら蒸し暑い。汗を拭こうが、水を飲もうが体温は下がらないし、汗を吸ったズボンは乾きにくい。しかも荷物はデポせず全てを背負うためなおのこと汗をかく。すれ違う人には、なぜそんなにでかい荷物を持つのか問われる。日帰り向けの山なので不思議に思われるのは仕方ない。高度から



すると塔ノ岳に向かって大倉尾根を登るようなものだと思っていたが、後半は岩場の急登もあり、簡単には登らせてくれない。軽快に登る地元の小学生たちに負けまいと踏ん張る。頂上にたどり着くと、白山は雲の彼方だが大野盆地が見下ろせる。盆地の奥には天空の城で知られる大野城が建つ丘が見える。下山口に向かう道は、二年前の夏合宿で歩いた梅海新道での暑さを彷彿とさせる。道の駅に辿り着くと、真っ先に時間貸しのシャワー室に駆け込んだ。温泉ではないがこの際サッパリできれば十分だ。鉄道で福井に向かう途中、越前大野に立ち寄り、大野城から荒島岳の勇姿を遠望した。福井駅からは夜行バスで YCAT に向けて快適な帰途に就いた。

今回もキツかったが、北海道遠征に向けて夏の暑さ対策、足元の濡れ対策、食糧計画など、課題が浮かび上がる有意義な山行だった。
(記：OT)

CT:勝原 6:00 - 登山口 6:40 - シャクナゲ平 8:40 - 荒島岳-9:35/9:55 - 小荒島岳
10:55/11:15-登山口 12:30 - 道の駅「越前おおの荒島の郷」 13:00

